

第3回吹田市高齢者生活支援体制整備協議会 全体協議シート
地域の活動を拓げていくために～「集いの場」や「助け合い活動」のこれからの展開～

「集いの場」の拡充に向けて

課題	ヒント	検討材料	方向性、さらなるアイデア
場所の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・地区福祉委員会への協力一覧（吹田市社協施設連絡会） →場所や職員派遣が可能77施設 ・介護保険等サービス事業所アンケート調査 →場所提供：可能60件、要相談78件 職員派遣：可能46件、要相談126件 	資料2	
担い手の不足	<p>アイデア②【我が事・丸ごと】 【元気な高齢者の社会参加】 「スタッフ」と「参加者」という役割を分けるのではなく、みんなで取り組んでいく。</p> <p>アイデア③【人づくり】 地域活動の担い手の不足が課題。解決のキーワードは、「楽しい・おもしろい・やりがい」というような活動を作っていく。</p>	資料4	
内容のマンネリ化	<p>アイデア①【つながりづくり】 多くの人が、「健康」に関して関心が高い。地域で「健康」に関することができなにか。</p>		

助け合い活動の創出に向けて

課題	ヒント	検討材料	方向性、さらなるアイデア
高齢者の困りごとの把握	<p>アイデア④ 【高齢者の困りごとの見える化】 地域包括支援センターやケアマネジャー、ヘルパーが高齢者からよく聞く「ちょっとした困りごと」を挙げることで、メニュー化につなげていくことができないか。</p> <p>アイデア⑤ 【地域での助け合い活動のマッチング】 高齢者の困りごとのメニュー、リストがあれば、「地域住民」が支援できる内容、できる時間を選んで支援できるのではないか。</p>	資料5	
コーディネート・マッチング			